

福島県文化財調査報告書 第一集

福島県発見の埋蔵文化財図録 二十葉

福島県教育委員会

## は し が 里

福島県に於ては、政府が多くの「史跡名勝天然記念物等重要文化財」が選定されていた。

第一集 奈良時代におけるはまなす盆地の現状 大正十一年 小此木 忠七郎

第二集 番城因相郡福浦村大字桑沢ノ御屋敷 同

第三集 赤井谷地御屋敷跡 同

昭和三年 斎 康 知 黄

第四集 福島県磐梯石器時代土偶調査 昭和四年 小此木 忠七郎

第五集 福島県における古墳分布の状態 昭和五年 八代義定

第六集 沼沢火山周辺岩盤 昭和五年

第七集 南浦公園と其の城跡 昭和十年

八代義定

このようにはまなす盆地はまたものも少くなかった。  
それが花開に於して新しい時代となり、文化財保護の開始が開始され、今までの歴史が認識され、その歴史が記録され、その歴史が伝承され、文化財の管理が整備され、その歴史が活用され、町の活性化が図られることで成り立つことである。  
また文化財保護を実現するに於して、古墳文化財の研究を近く公有されることはなつて、古墳文化財の研究は、古墳文化財の研究者たちの結果で各所が貴重な、価値高い研究がなされているが、古墳文化財は日本一の古墳文化財があつた福島文化財の研究が第一集として刊行することができた。







中村市街ニキヨリ正統にある古墳群中より剥げて十四年空見された。此方一石越山の古墳群の上に建てられたことを記する御所の住佳碑である。もの。其の裏面は約七センチ、台部を含めて一メートル全の高さを有する。昭和十九年十二月観見、「磐城高麗郡坂東安房宿御所御所に保存」。

常軽細に研いだ後、水酸化工場にて磨いて用意される。現在純度の高いものがある。

「中村新蔵」二本の小説がある古事記の中でも要は三・四回空見されたり。彼は伏木の脚物を斬つて、首に丸玉をとがつていて、和から國にかけて有名である。大正二年二月廿二日セント。（所有者在籍登記）

第一回 国版 装身具 その一

一、金剛縣立農業高  
富野町教育委員会 大学等学年大半期  
メートル、畠三・三メートルの磯根を高めに積み重ねた一種の築堤、  
式石塁を築いたのである。内部より土壇盛、直方、後方、後壁、  
馬頭等と共に堅牢である。二品大さが溝、一はやや小さく堅重の大き  
約一セント、二は約二セントとかられて、築堤と併せてなるもの  
と、不規則な構造を持つてゐる。築堤する在地であるといふ  
氣氛として和氣も手半筋木水差津(大湊勞務監修工事)出土よりも元  
年である。工事監修としていた西田、田中文化が東北地方へ向つて、

新宿大橋町、石川製陶所の販賣部  
新宿御園の販賣部である。

新井良輔著  
相馬郡古賀第の長さ一・七五センチ  
田村郡宇山町大勝寺

第一六四腰 武 具 鋼  
刀 相馬郡西野古賀  
下のもの田原源氏太刀。  
相馬太刀 石川路筋村中古現。昭和二十五年二月、大場春  
吉作太刀。高武座考鑑錄  
やむか手刀、長三四〇・五セン。儀大刀等、田村大字平石アカシ  
ヤ。古弓の形は、不明人會の入つた直頭筋と見て、古弓としているの  
で、恐らく大刀筋である。直頭筋のむち手刀は、槍頭の小さい  
範囲なもので、古弓最末期である。(同上第二十六回目註)

字幕小札

次第は、伊達源太村金原田家野の石室のない看板より直刀、士郎  
鉢と夫に出土。直刀長さ六寸一〇・二センチ。  
鉢甲小鉢、双葉形櫻形町内当腰穴出土。七センチ×一・九センチ。  
鉢身よしの断片である。鉢身直刀丈を伸す。



あとがき

一、この報告書は、主として義理後東下において発見された倭羅文化財の写真を叢書とするものである。

二、これらの調査について、東文化財調査委員会員谷城二郎氏、渡部晴峰氏並びに県下の考古学者田代、研究家の手になつたもののが多い。

三、中央では文化財保護委員会の斎藤嘉矩氏、国立博物館考古課長八幡一郎氏、東京大学山内清秀氏、鈴木青氏、慶應大学の清水義典氏、江坂源次氏、明治大学の後藤守一氏、移原莊介氏、国学院大学大庭泰雄氏、東北大大学伊東信雄氏並びに北大、研究所の先生方の御指導を得て、

四、写真は主として編者の撮影になるが、前記の先生方、猪田町の長谷川辰巳氏並びに福島市日知町新本一氏の協力的協助によつた。

五、以上協力下さった各位に謝意を表す。

六、本書を第一集として、第2集刊する予定である。研究資料として、教材用として再収めることをあれば望外の幸である。

昭和二十七年三月十日

福島県教育委員会社会教育課  
社会教育主事 塩宮茂

茂

